

米粉用米の推進に係る県担当者会議（概要）

北陸農政局生産部生産振興課
(令和5年7月27日（木）開催)

米粉用米の推進に係る県担当者会議概要①

- 世界の食料需給等を巡るリスクが顕在化する中、国内で唯一自給可能な穀物である米を、戦略的かつ多用途に活用することが求められている。
米粉の用途拡大を始めとした需要喚起の取組を進めるため、今回、各県担当者及び実需者等と意見交換を行った。

●米粉の現状と課題

【現状】

- ・一番の需要はパン用途。麺用途の需要はあまり多くない。
- ・グルテンをミックスしたパン用米粉は値段が高いものの、需要は堅調。
- ・小麦粉との価格差は縮まっており、期待を込めて今後の米粉需要はまだまだ上昇する見込み。

【課題】

- ①米粉の品質保持のため、農産物検査で3等以上のものを安定的に使用。
 - ②米粉を選んでいただくためには、品質と価格、プラスα（新しい価値）が必要。
 - ③米粉消費の裾野を広げるため、いかにして農業者にも消費していただけるか。
 - ④米粉のPRが一元化しないように、複合的に周知することが肝要。
- 米粉用米新品種の製粉特性や加工適性の情報が少ない。
- 北陸地域に適したパン・麺用向け米粉用米の品種がない。

米粉用米の推進に係る県担当者会議概要②

●管内各県の米粉の需要拡大に向けた取組について

- ①実需者への米粉活用ニーズの調査、マッチング
- ②小売事業者と連携した米粉商品の開発・販売（PRを含む）
- ③米粉商品開発への支援（研修会、コンテスト）
- ④米粉料理やレシピのコンテスト、米粉料理研修会の開催
- ⑤消費地の地方自治体と連携した米粉活用に係るプロモーションを実施

●まとめ、今後の対応

- ・米粉の需要拡大については、引き続き需要に応じた生産を推進し、特に需要喚起の取組を進めることが重要。そのため、国や各県と連携して課題を共有し、解決に向けて取り組む。
- ・北陸農政局では米粉の需要喚起のため、各県と連携して実需者等を対象とした北陸米粉サロン（9月予定）や、消費者等を対象とした北陸米粉セミナー（2月予定）等を開催する予定。
- ・北陸地域には現行あるパン用向け専用品種に限れば「笑みたわわ」が有望であるが、北陸の気候風土に適した米粉用米専用品種の育種はこれからであり、実用化まで時間を要する。